

令和元年度 施策評価シート

基本目標		「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる
施策の目標	区内に点在する観光拠点・資源の連携により、観光地としての魅力が向上するとともに観光プログラムが充実し、多くの人々がすみだを訪れ、まちがにぎわっています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指 標 名	観光客による区内観光施設等の平均立ち寄り地数									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標					3.5箇所					4.0箇所
実績		2.35箇所								

指 標 名	墨田区における来訪者の観光消費額推計									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標					4,500億円/年					4,750億円/年
実績		4,200億円/年								

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
平成29年度に実施した「観光消費額等調査」の結果によるものであり、今後も3年に一度調査を実施する。	H28	140,521
	H29	157,063
	H30	132,990

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	区内回遊促進イベント等の実施により、多くの観光客が区内を訪れ一定の成果は出ているが、今後は民間事業者が行うイベントの誘致などについても検討していく必要がある。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
○	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
東京スカイツリーによる経済波及効果を区内全体の産業活性化に結び付ける上で、観光施策の推進は、本区における最重要テーマである。区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくるため、より効率的な運営を図る必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
更なる観光客の誘客を推進すべく、「すみだ3M運動」や「すみだ地域ブランド戦略」と連携したもののづくり観光、すみだならではの観光資源を活用したまち歩き観光、商店街・商業施設等と連携した観光プログラムの充実を図っていく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳 出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳 出 総 額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標	直近の評価内容
						年度目標値	評価結果
						年度実績値	評価対象年度
1	地域DMOの推進	6,000	4,922	10,922		9500000	改善・見直し
						8211870	平成30年度
2	水辺を活用した 賑わい創出事業	19,894	4,922	24,816		65000	改善・見直し
						51500	平成30年度
3	両国観光まちづくり グランドデザイン推進事業	162	1,969	2,131		1700000	改善・見直し
						1636461	平成30年度
4	区内循環バス運行等経費	97,934	7,875	105,809		4500	改善・見直し
						4094	平成30年度
5	地域連携区内回遊促進 イベントの実施	9,000	5,906	14,906		6550	改善・見直し
						6252	平成30年度
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							

令和元年度 事務事業評価シート

施 策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる				部内優先順位
事 業 名	地域DMOの推進					1
目 的	すみだDMOが中心となり、地域と共に観光まちづくりを推進し、墨田区内の地域の賑わいを創出し、楽しめるまちをつくる。					主管課・係（担当）
						観光課観光担当
						03-5608-6931
対 象 者	観光客					
根拠法令 関連計画	観光振興プラン					
実施基準	区独自基準	実施方法	全部委託	人員体制・委託先	委託先	一般社団法人墨田区観光協会
事業内容	①地域おこし 地域の日常を観光資源として磨き上げる。 ②地域・事業者との連携・協力 宿泊事業者等と情報交換連絡会を開催する。 ③データ収集・分析 宿泊事業者等から観光データを収集し、分析する。 ④エリア情報の集約 飲食店・銭湯・交通等 ⑤観光情報の発信 イベント情報・マナー情報・エリア情報 ⑥イベントガイド イベント時に必要な場合に通訳がガイドする。					
経 過	開始年度	平成29年度		終了予定		
	平成29年4月（一社）墨田区観光協会を、観光庁の「日本版DMO制度」に基づく法人として登録するため、組織体制の確立及び計画の策定に係る支援を推進事業として事業開始。					
	平成29年度は、①すみだDMO推進協議会の開催（29.8、29.9 計2回）、すみだDMO実施計画策定に向けて検討。②マーケティングの実施（29.9～29.10）、区内観光施設等における来訪者アンケート及び宿泊施設 における宿泊者へのアンケート実施 ③外国人観光客向け旅行商品の造成エージェン等へのヒアリングを実施。 平成30年3月に、都内DMO法人第一号として登録手続を完了した。（観光庁HP「日本版DMO登録一覧」に平成30年3月30日付けにて掲載）					
議会質問 の 状 況	平成30年 第1回定例会 日本版DMOの観光庁への登録の進捗状況について 平成30年 第2回定例会 地域DMOの推進事業の進捗状況について 平成30年 決算特別委員会 地域DMOの推進事業費について					
そ の 他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 都内の区市町村で地域DMO法人として観光庁に登録された自治体・観光協会はない。					

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算現額（事業費）					15,000	6,000	12,000
決算額（令和元年度は見込み）					15,000	6,000	12,000
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		0	0	0	15,000	6,000	12,000
執行率（％）		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%	100.0%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
委託料	DMO推進委託	15,000	委託料	DMO推進委託	6,000	補助金・負担金	地域DMOの支援	12,000
	うちニーズ調査費	5,000						

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	推進協議会・連絡会の開催				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		5	R2	目標	0	5	6	6
				実績	0	5	1	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	6					
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	地域DMOの目標像と経営方針、各機関の役割分担と関係性の検討、実施計画の策定やPDCAサイクルの確立のため、活発な意見交換が求められる。なお、平成30年度は、推進協議会ではなく、宿泊事業者との情報交換連絡会を開催した。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	区内を訪れる観光客数 (観光関連施設入込客数及びイベント入客数)				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		10,000,000	37	目標	9,100,000	9,300,000	9,500,000	9,700,000
				実績	9,175,663	8,142,160	8,211,870	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	9,800,000	9,800,000	9,850,000	9,900,000	9,950,000	10,000,000
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	墨田区基本計画にある「すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる」という施策の達成をはかる指標として掲げられているため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	地域DMOが自主的に観光資源の発掘や発信を行えるモデルケースを構築することは、区全体の魅力の向上につながるものと考えられる。今後はDMO制度を活用した外国人観光客の誘致、受入事業を重点的に実施していくこととし、観光客の視点から地域の日常を、地域の理解や協力も得ながら、掘り出し(地域おこし)を行うことにより、観光資源を磨き上げていく。また、DMOが主体となり、墨田区、事業者、地域と連携・協力しながら、街ぐるみで来街者を受け入れる仕組み作りを行う。

課題・問題点
地域が考える「観光まちおこしに関する地域の課題」を洗い出し、区民・事業者・行政それぞれができる事を把握・整理し、短期的には区が主導して調整を行い、いずれは地域主体で自主的な取組ができるよう調整する必要がある。

施 策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる				部内優先順位	
事 業 名	水辺空間を活用した賑わい創出事業					2	
目 的	魅力的な水辺空間に観光客が集い、区内観光を楽しんでいる。					主管課・係（担当）	
						観光課観光担当	
						03-5608-6931	
対 象 者	本区を訪れる観光客						
根拠法令 関連計画	墨田区観光振興プラン						
実施基準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤0.5人 一般社団法人墨田区観光協会		
事業内容	●産直市「THE GREENMARKET SUMIDA」の開催 ●「吾妻橋フェスト」の開催						
経 過	開始年度	平成18年度		終了予定			
	●平成18年度に水辺空間の活性化を目的に「水辺のオープンカフェ」を開催。平成19年度は「水辺のオープンカフェ～吾妻橋フェスト」となり、平成20年度に「吾妻橋フェスト」となる。●平成28年度から産直市「THE GREENMARKET SUMIDA」を実施。						
議会質問 の 状 況							
そ の 他 特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等）						

予算・決算額推移（千円）		2 6 年度	2 7 年度	2 8 年度	2 9 年度	3 0 年度	令和元年度
予算現額（事業費）		9,093	12,856	22,610	21,000	20,000	22,099
決算額（令和元年度は見込み）		5,658	12,856	22,609	20,992	19,894	
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		5,658	12,856	22,609	20,992	19,894	0
執行率（％）		62.2%	100.0%	100.0%	100.0%	99.5%	0.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成 2 9 年度（決算）			平成 3 0 年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
委託料	産直市	15,331	委託料	産直市	15,034	役務費	さくらまつり	236
委託料	フェスト	4,661	委託料	フェスト	4,860	委託料	諸イベント	21,050
						使用料及び賃借料	さくらまつり	807

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	イベント実施回数				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		9	R7	目標	7	9	9	10
				実績	7	9	9	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	10	11	11	12	12	12
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	より多くのイベントを開催することで、水辺空間の賑わいが生まれるため。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	イベント来場者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		72,000	R7	目標	44,000	65,000	65,000	68,000
				実績	44,000	69,000	51,500	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	68,000	69,000	69,000	70,000	70,000	72,000
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	多くの方が来場することが、賑わいにつながるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	各イベントについて、より効果的な賑わい創出ができるよう、随時改善を行う。

課題・問題点
○北十間川観光回遊路整備事業や両国リバーセンターの整備を見据えた事業展開を進める必要がある。 ○新たな船着場の整備もふまえた観光舟運の活性化を進める必要がある。 ○イベント実施にあたっては、地域団体や友好自治体の協力も含めた新たな実施方法を推進していく必要がある。

施 策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる				部内優先順位
事 業 名	両国観光まちづくりグランドデザイン推進事業					3
目 的	平成２５年度に策定した「両国観光まちづくりグランドデザイン」の実現に向け、地元町会・地域団体・企業等からなるエリア懇談会、地域連絡会を立ち上げ、地域と行政の協働による観光まちづくりを推進する。					主管課・係（担当）
						観光課観光担当
						03-5608-6500
対 象 者	1 両国地域における町会及び企業等 2 両国にぎわい祭りに来場した観光客					
根拠法令 関連計画	両国観光まちづくりグランドデザイン					
実施基準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤3人 委託先	一般社団法人墨田区観光協会
事業内容	1 両国地域をA～Dの4つのエリアに区分し、各エリアの特性や観光資源を活かしたまちづくりの方向性及び施策を検討することを目的に、各エリアの地域団体を中心としたエリア懇談会を開催する。また、各エリア間の連携及び施策の共有を目的として、各エリアの代表者を構成員とした地域連絡会を開催する。 2 両国にぎわい祭りへの出展 両国地域を代表する地域の祭りである“両国にぎわい祭り”に出展し、来場者に対して、各エリアの観光資源を中心とした観光プロモーションを実施する。					
経 過	開始年度	平成25年度	終了予定	令和2年度		
	平成25年4月：「両国観光まちづくりグランドデザイン」区民シンポジウム 平成25年7月：「両国観光まちづくりグランドデザイン」策定 平成25年8月：「両国観光まちづくりグランドデザイン」策定記念イベント 平成26年9月～：「両国観光まちづくりグランドデザイン」エリア懇談会 平成26年12月～：「両国観光まちづくりグランドデザイン地域連絡会」 平成27年3月：「両国・春のまちブラ」 平成27年8月：「すみだ平和と鎮魂の灯」 平成28年2月：地域マップの作成及び東京マラソンを活用した事業PR 平成29年2月：地域マップ修正・増刷及び東京マラソンを活用した事業PR 通年実施：「エリア懇談会・地域連絡会の開催」「両国にぎわい祭りとの連携」など					
議会質問 の 状 況						
そ の 他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 関連部署：都市計画課					

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算現額（事業費）		3,000	7,000	3,000	1,000	200	2,200
決算額（令和元年度は見込み）		2,987	7,000	2,997	998	162	2,200
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		2,987	7,000	2,997	998	162	2,200
執行率（％）		99.6%	100.0%	99.9%	99.8%	81.0%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
委託料	冊子制作、イベント出展	998	委託料	イベント出展	162	補助金	事務局経費	2,000

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	地域連絡会・エリア懇談会の開催				単位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		0	R2	目標	11	10	8	1
				実績	11	10	7	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	0					
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	エリア懇談会や地域連絡会等を開催し、地域の方々の意見を伺いながら、地域の魅力を高めるための取組を行っているため。なお、令和元年度以降は、墨田区観光協会(DMO)を中心とした地域主体の活動へと移行し、区はその支援を担う立場となるため、目標年度に向かって開催回数は減少していく。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	両国エリアの主要観光施設入込客数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		2,700,000	R2	目標	2,300,000	1,600,000	1,700,000	2,600,000
				実績	2,330,966	1,545,923	1,642,396	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	2,700,000					
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	両国観光まちづくりグランドデザインの推進により、両国地域の観光資源が区内外へPRされ、両国を訪れる観光客数が増加していくことを見込んでいるため。※平成29年度は江戸東京博物館改修工事に伴う一時閉館、平成30年度は江戸東京博物館の特別展示室休室により、実績数が減少している。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	これまでは行政主体による活動が主であったが、今後は、地域主体による活動へと移行する時期に到達していることから、墨田区観光協会(DMO)を核とした支援体制を構築・運用していく。

課題・問題点
2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、地域主体による取組を活性化するとともに、墨田区観光協会(DMO)を中心とした支援体制の円滑な運用を図る。

施 策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる				部内優先順位
事 業 名	区内循環バス運行等経費					4
目 的	主要な駅、観光エリア、公共施設を巡る区内循環バスを運行することで、観光客の区内観光回遊性及び区民の生活利便性の向上している。					主管課・係（担当）
						観光課観光担当
						03-5608-6500
対 象 者	区民、観光客					
根拠法令 関連計画						
実施基準	区独自基準	実施方法	全部委託	人員体制・委託先	京成バス株式会社	
事業内容	南部、北西部、北東部の3ルートを運行 運行収支の不足額及び障害者の乗車に係る運賃相当額を補助している					
経 過	開始年度	平成23年度		終了予定		
	平成23年度 区内循環バス運行事業者の決定、区内循環バスの運行開始 平成24年度 バス停留所新設2箇所（北東部ルート1箇所、南部ルート1箇所） 平成25年度 バス停留所新設1箇所（南部ルート） 平成26年度 運行ルートの一部変更に伴う新設バス停設置 平成27年度 新ルート運行開始 平成28年度 運行に係る協定延長に向けた協議 平成29年度 バス乗降調査開始 平成30年度 バス停留所新設1箇所（北西部ルート1箇所）					
議会質問 の 状 況	平成30年1定 区内循環バスの利用客の大半が区民となっている現状について 平成31年1定 区内循環バスを利用実態に即して見直すべき					
そ の 他 特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 令和元年12月 総合運動場前に停留所新設及びルート変更を予定					

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算現額（事業費）		92,963	92,696	95,903	111,295	98,768	97,763
決算額（令和元年度は見込み）		87,747	91,960	95,794	110,920	97,934	97,763
財 源	国	0	0	0	0	0	0
	都	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
一般財源		87,747	91,960	95,794	110,920	97,934	97,763
執行率（％）		94.4%	99.2%	99.9%	99.7%	99.2%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
委託料	バス利用促進イベント等	8,272	委託料	車内コンテンツ修正等	1,289	委託料	車内コンテンツ修正等	1,526
備品購入費	乗降センサー購入	7,492	工事請負費	停留所新設工事	700	工事請負費	停留所新設工事	720
補助金	運行経費等補助	95,000	補助金	運行経費等補助	95,000	補助金	運行経費等補助	95,000

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	1日乗車券の年間販売枚数				単位	枚
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		3600	R7	目標	2000	2000	2000	2000
				実績	3697	3171	1530	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	2000	2000	2000	2000	2000	2000
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	観光客の利用状況の推定指標となるため							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	1日当たりの平均乗車人数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		4500	R7	目標	4500	4500	4500	4500
				実績	4119	4053	4094	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	4500	4500	4500	4500	4500	4500
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	利用状況の指標であるため							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	区民の生活の足としては定着している。目標の1日平均利用者数4, 500人に達するよう、引き続き利用者増に向けた取組を進めていく。

課題・問題点
・利用者が目標に達していないため、利用者増に向けた取組を進める必要がある。 ・次期協定締結の令和4年4月に向け、バス事業全体のあり方について見直す必要がある。

施 策	122	区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる				部内優先順位
事 業 名	地域連携区内回遊促進イベントの実施					5
目 的	地域団体や区内企業等と連携し、行政・地域・民間が一体的になって地域を盛り上げるイベントを実施することにより、東京スカイツリーを訪れる観光客等の区内回遊を促すとともに、観光客を受け入れる地域のおもてなしの心を醸成する。					主管課・係（担当）
						観光課観光担当
						03-5608-6500
対 象 者	東京スカイツリーをはじめ、墨田区を訪れる観光客					
根拠法令 関連計画	墨田区観光振興プラン					
実施基準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先		
事業内容	①ご当地キャラクターフェスティバルの実施 年1回 大横川親水公園や東京スカイツリータウン(R)1階ソラマチひろば、東京スカイツリー周辺の浅草通り等を会場に、両日合わせて約100体のキャラクターが集結し、キャラクターステージやご当地キャラブース、地元町会等による模擬店のほか、各会場を巡るスタンプラリーや缶バッヂラリーなどを実施。 ②東京スカイツリータウン内のひろばを活用した回遊促進イベントの実施 年2回 ソラマチひろばや区内を回遊するスタンプラリーを実施。					
経 過	開始年度	平成25年度		終了予定		
	①ご当地キャラクターフェスティバルは令和元年5月開催で7回目となる。 次年度以降の開催は未定。 ②令和元年度は11月と3月の2回(4日程)で開催予定。					
議会質問 の 状 況						
そ の 他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)					

予算・決算額推移（千円）		2 6 年度	2 7 年度	2 8 年度	2 9 年度	3 0 年度	令和元年度
予算現額（事業費）		5,000	8,960	9,153	9,153	9,000	8,936
決算額（令和元年度は見込み）		5,000	8,960	9,153	9,153	9,000	8,936
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		5,000	8,960	9,153	9,153	9,000	8,936
執行率（％）		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成 2 9 年度（決算）			平成 3 0 年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
委託料	ご当地キャラクターフェスティバル実施経費	5,000	委託料	ご当地キャラクターフェスティバル実施経費	5,000	委託料	ご当地キャラクターフェスティバル実施経費	5,000
委託料	回遊促進イベント実施経費	4,153	委託料	回遊促進イベント実施経費	4,000	委託料	回遊促進イベント実施経費	3,936

事業の成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	イベント来場者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		176000	37	目標	185000	172000	172500	173000
				実績	182500	172000	177000	177000
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	173500	174000	174500	175000	175500	176000
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	観光資源を連携させたイベントを実施することで、観光客等に対して、区内回遊を促す効果が期待させるため							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	スタンプラリーに参加した区内回遊者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		6900	37	目標	6500	6500	6550	6600
				実績	6500	6538	6252	6600
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	6650	6700	6750	6800	6850	6900
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	イベント実施による直接的な成果指標であるため							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	東京スカイツリー®を訪れる観光客等の区内回遊を促進し、各地域の観光資源の認知度向上及び経済効果が期待されるイベントである。 今後は、より効果的・効率的な事業運営を目指し、運営事業者・関係部署及び区内団体等との連携強化を図る必要がある。

課題・問題点
地域や民間企業との連携強化を図り、恒常的に区内回遊が促進される仕組みづくりを進めていく必要がある